

(様式 3 号)

学 位 論 文 の 要 旨

氏名 柴田 大明

〔題名〕

小腸腫瘍性病変スクリーニングにおけるCT enteroclysis/enterographyとCapsule endoscopyの併用効果

(Beneficial effects of combining computed tomography enteroclysis/enterography with capsule endoscopy for screening tumor lesions in the small intestine)

〔要旨〕

【目的】小腸腫瘍性病変に対するCT enteroclysis/enterography (CTE) とカプセル内視鏡検査 (CE) の診断能を比較し、併用した場合の診断能についても検討した。【方法】対象は2008年4月から2014年5月までに当院で施行したCTE 298件のうち、経過観察期間中にCEを施行した98症例を対象とした。そのうち、13例が最終的に腫瘍性病変と診断され、CTEとCEの診断能を比較した。【結果】小腸腫瘍性病変に対する感度はCTEが84.6%、CEが46.2%であり、CTEの感度が有意に高かった ($P=0.039$)。CEとCTE間の特異度、陽性適中率、陰性適中率、正診率に有意差は認めなかった。また、CTEとCEを併用 (CTE+CE) した検査結果とCE単独での検査結果を比較すると、感度は、CTE+CE 100%、CE 46.2%、CTE+CEの感度はCE単独検査と比較し、有意に高かった ($P=0.002$)。特異度ではCTE+CE 100%、CE 96.5% ($P=0.081$) であり、有意差は認めなかった。陽性適中率CTE+CE 100%、CE 66.7% ($P=0.012$)、陰性適中率CTE+CE 100%、CE 92.1% ($P=0.008$)、正診率CTE+CE 100%、CE 89.8% ($P=0.001$) といずれも有意差を認めた。【結論】小腸腫瘍性病変に対するCTEの感度はCEよりも有意に高く、CTEとCEの併用によりCE単独での検査に比べ感度、陽性適中率、陰性適中率、正診率いずれも有意差を認め、小腸腫瘍性病変のスクリーニングに有用であると考えられた。

学位論文審査の結果の要旨

医学系研究科応用分子生命科学系 (医学系)

報告番号	甲 第1410 号	氏 名	柴田 大明
論文審査担当者	主査教授	山崎 隆弘	
	副査教授	日 邊 剛	
	副査教授	坂 井 田 中	
学位論文題目 Beneficial effects of combining computed tomography enteroclysis/enterography with capsule endoscopy for screening tumor lesions in the small intestine (小腸腫瘍性病変スクリーニングにおける CT エンテロクリーシス/エンテログラフィとカプセル内視鏡の併用効果)			
学位論文の関連論文題目 Beneficial effects of combining computed tomography enteroclysis/enterography with capsule endoscopy for screening tumor lesions in the small intestine (小腸腫瘍性病変スクリーニングにおける CT エンテロクリーシス/エンテログラフィとカプセル内視鏡の併用効果)			
掲載雑誌名 Gastroenterology Research and Practice 第 卷 第 号 P. ~ (2015 年 掲載予定)			
(論文審査の要旨) 【目的】小腸腫瘍性病変に対する CT enteroclysis/enterography (CTE) とカプセル内視鏡検査(CE)の診断能を比較し、併用した場合の診断能についても検討した。【方法】対象は2008年4月から2014年5月までに当院で施行したCTE 298件のうち、経過観察期間中にCEを施行した98症例を対象とした。そのうち、13例が最終的に腫瘍性病変と診断され、CTEとCEの診断能を比較した。【結果】小腸腫瘍性病変に対する感度はCTEが84.6%、CEが46.2%であり、CTEの感度が有意に高かった(P=0.039)。CEとCTE間の特異度、陽性適中率、陰性適中率、正診率に有意差は認めなかった。また、CTEとCEを併用(CTE+CE)した検査結果とCE単独での検査結果を比較すると、感度は、CTE+CE 100%、CE 46.2%、CTE+CEの感度はCE単独検査と比較し、有意に高かった(P=0.002)。特異度ではCTE+CE 100%、CE 96.5%(P=0.081)であり、有意差は認めなかった。陽性適中率CTE+CE 100%、CE 66.7%(P=0.012)、陰性適中率CTE+CE 100%、CE 92.1%(P=0.008)、正診率CTE+CE 100%、CE 89.8%(P=0.001)といずれも有意差を認めた。【結論】小腸腫瘍性病変に対するCTEの感度はCEよりも有意に高く、CTEとCEの併用によりCE単独での検査に比べ感度、陽性適中率、陰性適中率、正診率いずれも有意差を認め、小腸腫瘍性病変のスクリーニングに有用であると考えられた。			
本研究は、小腸腫瘍性病変に対する CT enteroclysis/enterography とカプセル内視鏡併用の有用性を明らかにした論文である。よって、学位論文として価値あるものであると認められた。			